

# Photo ふなばし



三山の七年祭で秋空に舞う八王子神社の神輿 みこし

とくしゅう  
PART 1

550年の伝統 三山の七年祭  
勇壮な神輿に12万人が熱狂

とくしゅう  
PART 2

写真で見る船橋物語Ⅲ  
《近世》

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信
- WE ARE IN FUNABASHI

まちなかの文化財／ふなばしの民話  
市民ひとことインタビュー



二代目広重が万延元年(1860年)に描いた「下総舟橋大神宮」

vol. 82

広報ふなばし写真版

11月号 (隔月第4月曜日発行)

とくしゅう  
PART 1

# 550年の伝統 三山の七年祭 勇壮な神輿に12万

# 人が熱狂



9つの神輿が続々と集まる神揃場。ここから一基ずつ三山の町を練り歩き、二宮神社に昇殿します



三山の神揃場に6年ぶりに神輿が勢ぞろい。「ソイヤ、ソイヤ」の勇壮な掛け声が秋空に響き渡り、棧敷や沿道には12万人もの皆さんが詰め掛けました。

丑年と未年に行われる「三山の七年祭」。丑年の今年も、9月12・13日の「湯立祭（小祭）」に始まり、11月1日の「みそぎ」、2日の「安産御礼大祭」で最高潮に達しました。船橋、千葉、習志野、八千代の4市から9つの神社の神輿が神揃場に集合。次々と二宮神社に昇殿しました。その後、2日夜から3日未明にかけて「磯出祭」が厳粛に行われました。

室町時代の文安2年（1445年）、千葉氏一族の馬加城（千葉市幕張町）城主馬加康胤の妻が懐妊。10か月過ぎても出産の兆しがないので、二宮神社などの神官に安産祈願の加持祈禱をさせました。そして、無事男子が誕生し、二宮神社で安産御礼の大祭を行ったのがこの祭りの始まりと伝えられています。

550年余の歴史と伝統を持つ「三山の七年祭」。これからも、地域の人々に愛され、引き継がれていくことでしょう。



9月に行われた湯立祭（小祭）には子ども神輿も登場。昔は、この日に大祭の日程を決めていました



二宮神社に昇殿する菊田神社の神輿。中では神事が行われます

### 磯出祭

子安神社が中心となって、二宮神社、子守神社、三代王神社により、幕張の旧海岸で磯出祭が行われます。

この祭りは安産祈願の神事で「産屋の神事」と言われています。前回の七年祭の年（平成3年）に生まれた男女が、神前に供えられた蛤を交換し合ったり、昇夫（担ぎ手）が柁を奪い合ったりという儀式が、古式ゆかしく行われます。



満潮時が近づくと、前回の七年祭の年に生まれた男の子と女の子が、式場に入場



幕張の旧海岸で行われた磯出祭。深夜にもかかわらず、大勢の見物客と昇夫で、身動きできないほどの人出となりました



神事後、式場の外で二宮神社と子安神社の神輿が二度、三度接近し、6年に一度の逢瀬を楽しみました

14：00～  
各神社の神輿が順次二宮神社に昇殿



通りを曲がるのも一苦勞。時平神社の大きな山車

昇殿後、それぞれの神社に戻る

### 「磯出祭」

20：00  
磯出式場に向けて二宮神社の神輿が出発

各神社の神輿も出発

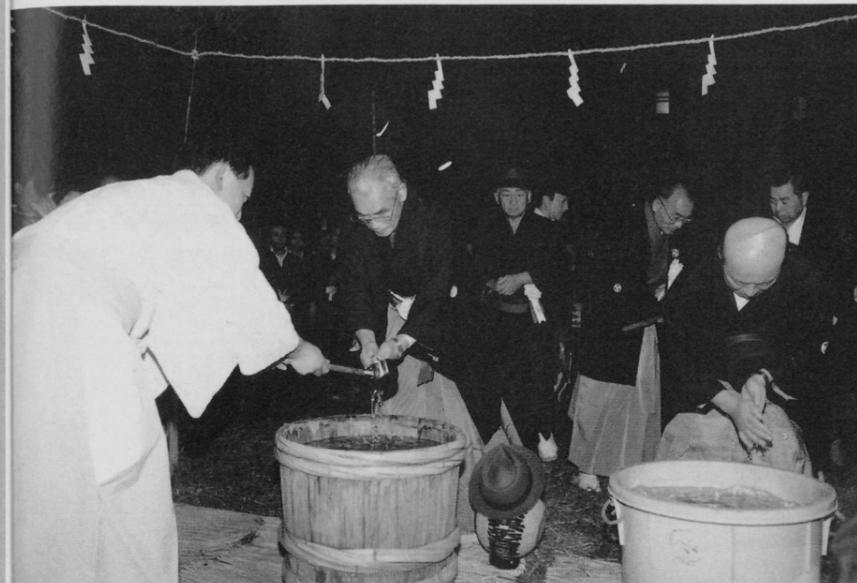
### 11月3日

2：00～  
4つの神社の神輿が次々に到着、式場に入場

3：00  
「産屋の神事」を行う男女が式場に入場

神事執行

4：00  
二宮神社と子安神社の神輿が相すって別れる



習志野市の袖ヶ浦運動公園で行われたみそぎで、手を洗って身を清めます

### 安産御礼大祭

神揃場<sup>かみそろいば</sup>に集まる、二宮神社をはじめ9つの神社には安産と親族にちなんだ役割があります。

まず、神揃場で一族対面の儀式を行い、その後、各神社の神輿は、定められた順序で三山旧道を通して二宮神社に昇殿します。

### 参加神社と役割

二宮神社 <sup>にのみや</sup>	船橋市三山	主人・父
子安神社 <sup>このやす</sup>	千葉市畑町	妻・母
子守神社 <sup>こまもり</sup>	千葉市幕張町	子守り
三代王神社 <sup>さんだいおう</sup>	千葉市武石町	産婆
菊田神社 <sup>きくた</sup>	習志野市津田沼	叔父
大原大宮神社 <sup>おおはらおおみや</sup>	習志野市実初町	叔母
高津比咩神社 <sup>たかつひめ</sup>	八千代市高津	娘
時平神社 <sup>ときひら</sup>	八千代市萱田町	息子
八王子神社 <sup>はちおうじ</sup>	船橋市古和釜町	息子



前回の七年祭の年に生まれた子どもが参加する稚児行列。子安神社だけに見られる習わしです

### みそぎ

大祭の前に、二宮神社と祭りに参加する三山地区の皆さんが、旧鷺沼海岸で身体を洗い清める儀式。

かつては、全員祭り手ぬぐい1本だけで素裸となり、海に入ったそうです。現在は、海の埋め立てで海岸が遠ざかり、みそぎの方法も様変わりしています。



紋付きの羽織姿で二宮神社を出発



神揃場では、詰め掛けた人々の熱気と相まって、昇夫（担ぎ手）の人たちにも気合いが入ります



神社から神揃場へ向けて繰り出す二宮神社の神輿。800キログラムを越す神輿を、田喜野井と藤崎（習志野市）の昇夫が交代で担ぎます

### 11月1日

「みそぎ」  
19：00  
二宮神社を出発  
20：00  
「みそぎ」開始  
21：00  
「みそぎ」終了

### 11月2日

「大祭」  
11：30  
二宮神社の神輿が神揃場に向け出発  
12：00～  
神揃場に各神社の神輿が次々に集合  
稚児行列も神揃場を通過

# 写真で見る船橋物語Ⅲ 《近世》



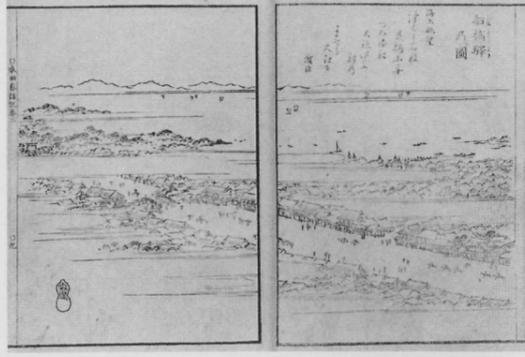
市の文化財に指定されている「成瀬氏の墓」。第7代犬山城主成瀬正寿の墓(左)は、県内でも最大級の大きさです



成瀬正成肖像(宝成寺蔵)



江戸時代、大神宮の素人相撲は有名で、ここから大相撲の人気力士も誕生しました。船橋出身の荒馬吉五郎(左)は、関脇まで昇進し、通算18場所も三役を務めました



『成田名所図会』に描かれた幕末の船橋宿(西図書館蔵)



文政7年(1824年)の漁場争いで亡くなった漁師総代を弔うために始められた、不動院(本町3)の大仏追善供養。毎年2月28日に行われます



毎年10月20日の例祭で行われている、船橋大神宮の奉納相撲。勝負の判定を巡って、見物客がよくけんかを始めたので、「けんか相撲」と呼ばれました



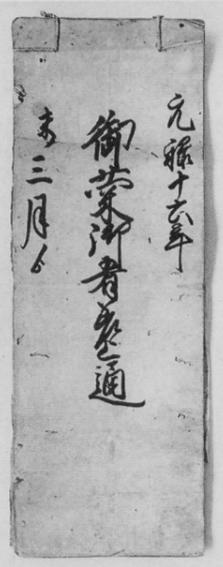
徳川家康肖像(船橋大神宮蔵)



『東海道中膝栗毛』で有名な、十返舎一九の作品『金草鞋』のさし絵に描かれた船橋の旅籠



万治2年(1659年)、奉行所宛に出された漁場争いの訴状(市漁業協同組合蔵)



元禄16年(1703年)、將軍家に献上した魚について書きとめた『御菜御者差上通』(市漁業協同組合蔵)



現在の御成街道。船橋から下総台地をほぼ一直線に貫いて東金に至る道です



船橋御殿跡の中心に建てられたといわれる、日本一小さな東照宮(本町4)

「はや、江戸に着きけるよ」。初めて江戸に行く者が、もう着いたと勘違いしたといわれるほど、江戸時代の船橋は、宿場町、漁師町として大いに栄えていました。また、中央の台地には、幕府の馬の牧場が置かれていたほか、俳諧などの文化も盛んで、文化財も多く残っています。今号では、近世(江戸時代)の船橋の歴史を紹介します。

### 家康と船橋

狩りを好んだ家康は、東金周辺で二度にわたって鷹狩りなどを催し、船橋に宿泊休憩所として船橋御殿を作りました。元和元年(1615年)には、この船橋御殿に家康が宿泊し、その日は船橋でも鷹狩りを催しています。後に船橋御殿は廃されましたが、跡地の中心には、家康をまつる東照宮が建てられました。

また、家康は街道の新設・整備にも努め、産業の振興を図りました。船橋から東金に至る御成(東金)街道もその一つで、慶長19年(1614年)に造成させたものです。

このほか、家康は相撲を好んだことでも知られています。大神宮で行われている奉納相撲は、船橋を訪れた家康をもてなすために、子どもを集めて始められたものです。

### 船橋唯一の大名・成瀬家

船橋地方は、代官や旗本の支配地とされましたが、その旗本の一人に、後に大名になった成瀬正成がいます。家康の側近だった正成は、家康が関東に移ると、旧葛飾周辺に四千石を与えられました。後に尾張徳川家に家老として遣わされ、犬山城主となりました。船橋の成瀬家は三代で断絶しましたが、船橋と犬山の成瀬家の墓の一部が本郷の宝成寺(西船6)にあり、市の文化財に指定されています。

### 船橋と漁業

江戸時代の船橋は、將軍家に献上する魚をとる「御菜浦」とされていました。これは、家康が船橋御殿を利用した時、魚の献上をおおせつけられたのが始まりとされています。船橋の漁師は、將軍家に魚の献上の御用を務める代わりに、広大な漁場を占有することを許されています。

### 宿場町船橋

江戸時代の船橋は、御成街道をはじめ佐倉街道、上総街道、行徳街道が集中する交通の要衝だったので、宿場として大いに発展しました。特に成田不動尊への参詣者が増えた江戸後期には、旅籠(旅館)の数は30軒近くに増え、また商家の数も多く、房総でも屈指の宿場として栄えました。



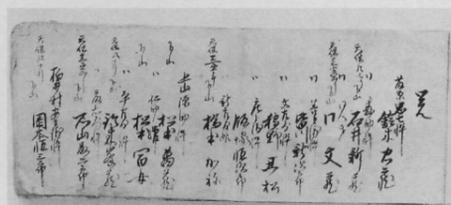
江戸時代前期の作と見られる、藤原堂の木造観世音菩薩立像(身代観世音)



身代観世音は33年に1度ご開帳され、これに合わせて稚児行列も行われます。写真は平成6年11月に行われたものです

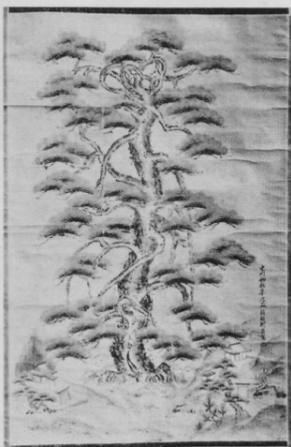


西光寺(大穴北5)にある、江戸時代の俳人斎藤その女の墓



▲江戸時代の私塾「安川舎」で学んだ生徒の名簿「筆弟名前控」

◀浄勝寺(本町3)にある筆子塚



昔、この地に、有名な「揺ぎの松」(右)という巨木があり、これが枯れたことを惜しんで、木食僧観信に彫ってもらったという「ゆるぎ地蔵」。享保8年(1723年)ころの作と推定されています

**文化と教育**  
江戸時代の船橋の文化水準は非常に高いものでした。特に俳諧は盛んで、俳人の数は、現在知られるだけでも30人以上に上ります。中でも、斎藤その女は女流俳人として特に有名です。  
また、教育も盛んで、市内各所に寺子屋・私塾が開かれ、子どもたちに読み書きやそろばんを教えていました。師の功德をほめたたたえた頌徳碑や、弟子(筆子)が亡き師に感謝して建てた筆子塚が、市内で26基も確認され、当時の寺子屋や私塾の普及がうかがえます。  
この時代の文化財としては、「身代観世音」と呼ばれる藤原堂(藤原3)の木造観世音菩薩立像や、「ゆるぎ地蔵」と呼ばれる木造地藏菩薩坐像(飯山満町2)、明治4年に廃止されるまで船橋一帯に時を告げていた了源寺(宮本7)の鐘楼堂などが知られています。



了源寺の鐘楼堂。ここに、幕府が大砲射撃を行ったときの鉄砲台の台座があったといわれています。これを廃止した後、幕府から「時の鐘」として認められ、船橋一帯に時を告げていました。



初代広重が描いた「下総小金原」



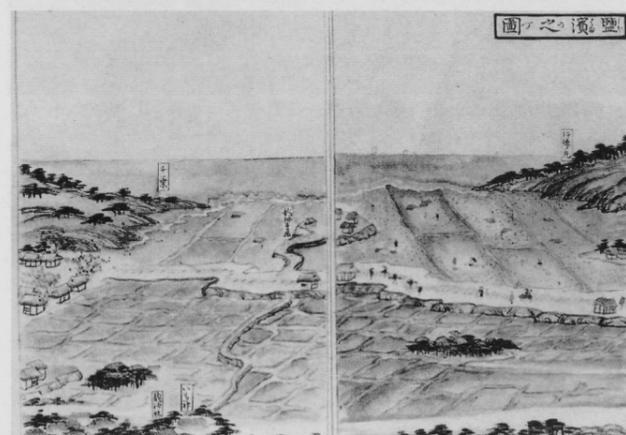
村々から駆り出された勢子人足が、馬を追い込むための「勢子土手」。その一部が二和小学校横に今も残っています



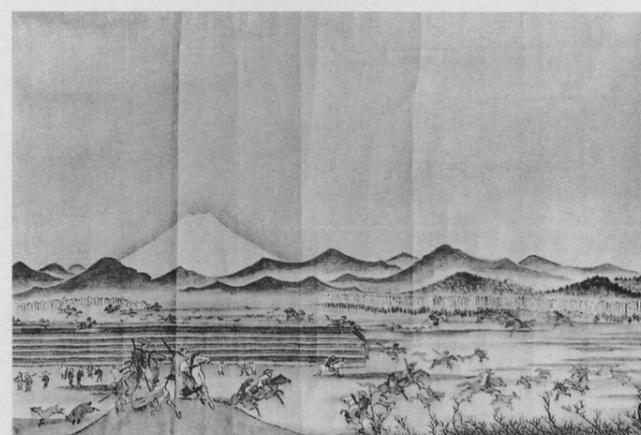
高幢庵(薬円台1)に残る丹羽正伯供養碑(左)と桐山太右衛門の墓



享保7年(1722年)に馬牧の一部に開いた、下総薬園の想像図(薬円台小学校の案内板より)



「鹿島参詣記」に描かれた、行徳街道南側に広がる塩田



寛政7年(1795年)の鹿狩りを描いた「小金原御鹿狩絵図」(西図書館蔵)

**塩浜**  
行徳から西海神にかけては、塩浜として知られていました。この地方の塩は古積塩と呼ばれ、関東各地へ送られました。  
また、下総西北部一帯では、4回にわたり、将軍家による鹿狩りが行われました。鳥や獣を追うこの狩りは、大規模なものになると人足が10万人に上ることもありました。  
**将軍家の鷹場と鹿狩り**  
江戸時代の鷹狩りは将軍や大名の特権でした。船橋地域の鷹場を見ると、西海神から小栗原にかけての一帯は、将軍自らが鷹狩りを行う御拳場で、その外側には、鷹匠が鷹の訓練をする御提餉場がありました。  
また、下総西北部一帯では、4回にわたり、将軍家による鹿狩りが行われました。鳥や獣を追うこの狩りは、大規模なものになると人足が10万人に上ることもありました。



海老川によみがえった鷹匠橋。鷹匠橋とは、鷹の訓練のときに臨時にかけられる橋のことで

# '97一平・さやかファミリーフェスティバル さわやかな汗と笑顔がいっぱい



2万5000人が参加して、様々なスポーツでさわやかな汗を流しました

澄みきった秋空の下、スポーツ健康の祭典「'97一平・さやかファミリーフェスティバル」が10月10日体育の日に、運動公園をメイン会場として市内6会場で行われました。

当日は、関東マーチングフェスティバルに千葉県代表として参加した法田・小室中学校のマーチングドリル演技で開幕。恒例の障害物競走や市内31駅からのウォークラリーのほか、今年から船橋市をフランチャイズ(本拠地)にしたNTT関東野球部による野球教室などが行われました。



南三咲の会場では126人が参加して、ゲートボールの部・決勝大会が開かれました



NTT関東野球部の皆さんによる野球教室は、少年野球の子どもたちに大人気

## ゴミ減量フェスティバル&南部清掃工場フェア 環境にやさしい美しい街づくり



牛乳パックを材料に、オリジナルのハガキづくりに挑戦



掘り出し物を探そうと、フリーマーケットは大にぎわい

ごみの減量と再資源化に関心を持ってもらおうと、10月26日、「ゴミ減量フェスティバル&南部清掃工場フェア」が行われました。

南部清掃工場の芝生広場で行われたフリーマーケットには約200店が出店し、掘り出し物を探そうと、たくさんの皆さんが訪れました。また、牛乳パックからハガキを作る講座では、手軽にできるゴミの減量化、再資源化をたくさんのチビっ子たちが体験していました。

## 子どもたちが中国・西安市へ 友好学校で様々な交流

友好都市・西安市の小・中・高校と友好学校を締結している市場小学校、船橋中学校、市立船橋高校の児童・生徒30人が、11月1日から6日まで西安市を訪問しました。

これは、交流を通してお互いの理解を深め、豊かな国際感覚と広い視野を持ってもらおうと行われたものです。子どもたちは、友好学校の日体験入学や友好作品展の鑑賞などを通じ、お互いの友好を深めました。



育才中学校での共同学習で書画に挑戦しました

## 農水産祭と畜産フェスティバル 即売会とイベントが大盛況

市内で盛んに営まれている農水産業を理解してもらおうと開催されているイベントの一つ、農水産祭が今年も11月3日に行われました。会場となった中央卸売市場北側の駐車場には、市内でとれた新鮮な農水産物などが並び、即売コーナーはどこも行列。また、特設ステージでは、様々なアトラクションも披露されました。

10月11日には、農業センターで畜産フェスティバルも行われ、市内で営まれている質の高い畜産業をアピールしていました。



新鮮な農水産物や畜産物を買求めて、たくさんの皆さんが集まり、即売コーナーには長い列ができていました



畜産フェスティバルで、牛の乳しぼりにチャレンジ



明治天皇駐蹕之處の碑

習志野台団地及び周辺一帯の地域は、現在では五十四万都市の一大文化圏であるけれども、古くは幕府の野馬放牧地、近くは軍隊の演習場で、いづれにせよ大和田原(のち習志野原)という名の、見渡すかぎり広漠たる原野だった。人家は殆ど無く、だからお寺も神社も無かった。今日此地に「文化財」が無いのはその故である。

という次第で「明治天皇駐蹕之處」の碑(市指定文化財)は貴重である。「駐蹕」は今日聞かない、目にしない言葉だが「チュウヒツ」と読み、「天子が行幸して、どこかに滞在する」(角川新字源)の意。「天子が行幸」も古い。天皇がお出かけになる、ということ。時に明治六年四月二十九日、若き明治天皇はお氣に入りの西郷さんが作った、出来たての軍隊の大演習を、ご覧になるべく此地にいらした。満足してお帰りになられて五月十三日、此地を「習志野原」と命名され、永く陸軍の「操練場」となってきた。

碑面の書は「元帥陸軍大将公爵 山縣有朋」である。裏面の撰文は山縣の子分、大島建一陸相。書は日高秩父が筆を執った。

——公園晩秋。晶子の、金色のちひさき馬のかたちして、いま、銀杏が散る。

(文・大木勲)

### 習志野の文化財

「明治天皇駐蹕之處」碑  
(郷土資料館敷地内)



明治23年頃の習志野原



お互いにまわしをつかんで「がっぷり四つ」の力相撲

「はっけよい のこった のこった」。豆力士が土俵の上で大奮闘。

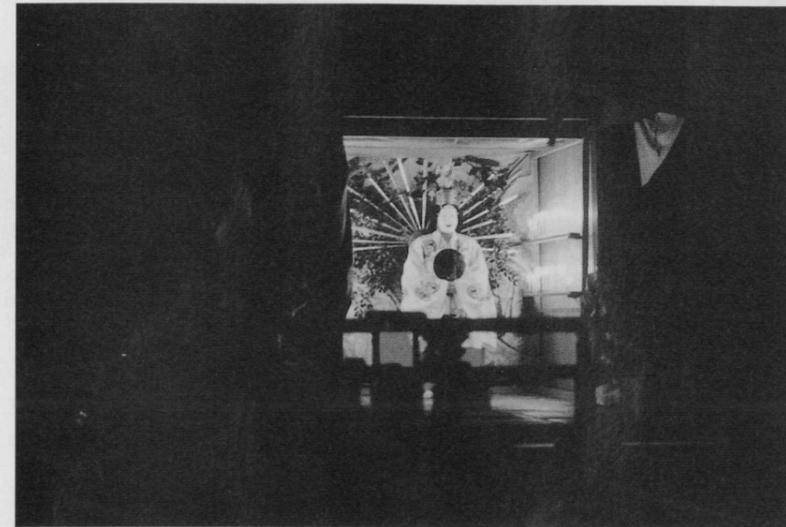
毎年、船橋大神宮では子ども相撲大会が行われています。今年も、10月19日に市内13校、196人の豆力士が大神宮の土俵に集合。個人戦、団体戦で土まみれになりながら力相撲を披露しました。

熱戦の結果、個人戦3・4年生の部が水野大介君（宮本小学校）、5・6年生の部が石井賢秀君（葛飾小学校）、団体戦では、葛飾小学校が優勝を果たしました。

## 大神宮子ども相撲大会 大人顔負けの好取組

## 伝統行事

## 高根町神明社 今に伝える神楽の舞い



「天の岩戸舞」で、暗やみの中、神秘的に浮かび上がる天照大神

高根町神明社の森が夜のとばりにつまれるころ。厳肅な雰囲気の中、太鼓、笛のゆったりした拍子に合わせ、神楽の舞が始まりました。

ここ神明社で演じられるのは全部で14座。「日本武尊舞」ではヤマトタケルが女装してクマノを討つ場面が、また、「大蛇舞」では、ササノオノミコトが八岐のおろちを退治する場面が演じられました。最後は「天の岩戸舞」。神楽殿にロウソクがともされ、天照大神を岩屋から連れ出すという神秘的な場面になると、神楽は一気にクライマックスを迎えました。

深遠な神話の世界に引き込まれた見物の皆さんは、舞が終わってもしばらくの間、余韻に浸っているようでした。



鬼に奪われた玉を鍾馗が取り返し、姫に奉る「玉取舞」

### 市指定文化財の神楽が演じられる日

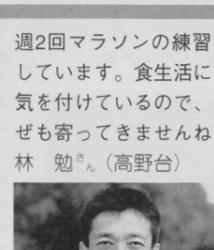
船橋大神宮	宮本5-2-1	1月1日・2日、節分、10月20日、12月の二の酉
二宮神社	三山5-20-1	1月15日、10月16日
高根町神明社	高根町600	元日、5月1日、10月15日
飯山満町大宮神社	飯山満町2-843	1月7日、10月23日



肌を丈夫にするため、子どもとプールに通っています  
添田真弓さん（緑台）  
隼也くん（1歳）



孫とジョギングロードを散歩するなど、なるべく外に出るようにしています  
新開正子さん（市場）  
彩乃ちゃん（6歳）



外から帰ったら、子どもと一緒に手を洗うがいをしています  
長瀬恵享さん（八木が谷）  
彩花ちゃん（1歳4か月）



外から帰ったら、子どもと一緒に手を洗うがいをしています  
長瀬恵享さん（八木が谷）  
彩花ちゃん（1歳4か月）

テーマ  
市民ひとことインタビュー  
あなたのかげの予防法は？



29人の中学生たちが、自分の考えを熱く語りました

船橋ライオンズクラブの主催で、船橋市中学生弁論大会が、10月18日、高根台中学校で開かれました。

この大会には、市内27校から選ばれた29人が出場。学校生活やボランティア活動などを通じて感じたことを熱く語っていました。

審査の結果、金杉台中学校3年生の佐藤海さんが市長賞に輝きました。



佐藤海さんは、「心をつなぐ手紙」と題して命の尊さを訴え、市長賞を受賞

## 第3回ららぽーと文化祭 サークル活動の成果を発表

公民館などで活動しているサークルの皆さんの発表の場となっているららぽーと文化祭。今年も10月9日から11月3日まで、ららぽーと全館で開催されました。

ウエストモールやセンターコートには、書や絵画、生け花などの力作を展示。また、クリスタル広場では、コンサートやダンスサークルの発表もあり、買い物に訪れた皆さんを楽しませていました。



書や絵画、手工芸品が所狭しと展示されました



ブルーハワイアンサークルの皆さんがダンスを披露

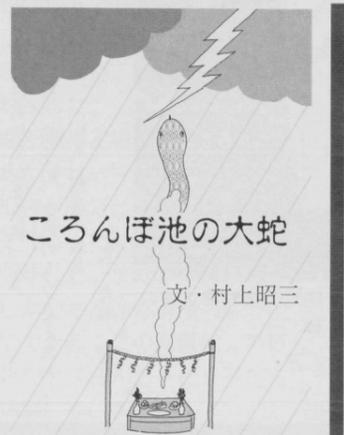


昔、長津川の水量の半分も湧出したというころんぼ池跡（北本町2）

これは、ザーツと昔の話だということ。長津川の下流の傍らのころんぼ池（現・公論坊公園）の池底に、竜神様がいました。そして、池の周りに、大きな大蛇が一匹棲んでいて、いつも辺りを睥睨していました。そこで、付近の村の人々は、口々に「大蛇には気をつけろよ。絶対に近寄るなよ」と言って、池には滅多に近寄りませんでした。しかし、この大蛇は一年に一回、秋口に池の竜神様のお使いとして、天沼現・天沼弁天池公園の竜神様の所に出かけました。そのため、池から沼までの田圃の稲が一本の線を引いたように倒れ、これを目にした人々は、「ころんぼ池の大蛇が、今年も天沼へ出かけたな。毎年、律義なもんじゃ」と言いながら、大蛇の通った跡を眺めました。

どこかで、ある日、池の近くの田圃で働いていた某が、大蛇が稲叢の上でぐるろを巻き、居眠りしている光景を見ました。これを見た某は、日頃の恐怖への反抗心が募り、本当にとっさに、稲叢に火をつけ、大蛇を殺めてしまいました。そして、焼跡に残った大蛇の遺骸を見て、はっと我に帰った某は、ここで「あつ、これは大変なことをしてしまった。これはきつと罰が当たるぞ。困った、困ったことをした」と言っていました。そこで、思案の末、焼け残った大蛇のお頭を大神宮（船橋大神宮）様を持って行き、手厚く祈禱をしてもらい、奉納しました。その後、池の近くの村では、早魃の年には、大神宮様の神主に頼み、池の畔に設けた祭壇に大蛇のお頭を飾り、雨乞いをしました。すると、大蛇の御霊は忽然昇天し、雨を降らしてくれました。この大蛇のお頭は、明治戊申の船橋戦争の時に、大神宮様は戦火に遭い、社殿と一緒に全てが跡形なく焼けてしまい、今は残っていないということです。

## ころんぼ池の民話



ころんぼ池の大蛇

文・村上昭三

「船橋は、都会的なところと緑がたくさんあるところが両方あっていいですね」と、流ちょうな日本語で話すクリスさんは、カナダのバンクーバー出身。  
2年前に来日し、船橋市のALT（外国人語学指導助手）として、前原中学校と高郷小学校で英語を教えています。「子どもたちと一緒にいると、とても楽しいですね。授業以外でも仲良くしています」  
日本へ来たのは、カナダの大学に通っていたころ、日系2世の友達に勧められたのがきっかけだそうです。「将来、自分にとって、日本で英語を教えるのがいい経験になると思いました」とにっこり。  
趣味は、大学生のころから始めたジョギングで、週に4、5日は近所を走っているそうです。また、佐倉や北軽井沢で行われたマラソン大会にも出場し、フルマラソンで3時間20分の記録を持っているとか。  
旅行も好きで、東南アジア諸国はほとんど周っているそうです。今度は、また行ったことのない香港を訪ねてみたい、というクリスさん。「将来は、日本の経験を生かし、カナダで小学校の先生になりたいですね。それと、静かな郊外で暮らしてみたいです」と、さわやかな笑顔で語ってくれました。



あいらぶ・ふなばし

船橋での経験を将来に生かしたいですね

クリス・ジュリさん  
(中野木)

ママと一緒に新体操



子どもたちもとても楽しそうです。皆さんも仲間に入りませんか

- ①平成9年4月
- ②船橋アリーナ
- ③第2・4木曜日  
(11時15分～12時30分)
- ④親子30組
- ⑤浅田恵津子  
☎63-6214

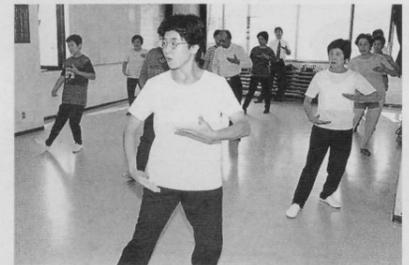


親も子どもと一緒に体を動かせるので、運動不足の解消になります

中国養生気功



皆さんも心身をリラックスして、ストレスを解消してみませんか



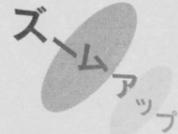
老若男女、どなたでも簡単に親しめます

- ①平成9年2月
- ②中央公民館
- ③毎週水曜日  
(10時30分～12時)
- ④20人
- ⑤斉藤賢吾  
☎35-1602  
030-317-7676



世界大会のポスターの前で、にこやかに思い出を語る坂本さん

公演を終え、会場で記念写真を撮る人形劇連絡会の皆さん



子どもたちのふれあいが楽しいんです

船橋地区アマチュア人形劇連絡会会長  
坂本妙子さん  
(本郷町)

まい・ふあっしょん



荻沼ゆかりさん  
(芝山)

茶色のアンサンブルに紺色のスカート、胸元にパールのネックレスをあしらって登場した'97ミスさざんかの荻沼さん。  
「流行に左右されず、長く着られるモノを選びます。地味な色が多いので、ネックレスなどでアクセントをつけるようにしています」  
夢は、語学力を生かしてスチュワーデスになることと笑顔で話してくれました。

シャルルヴィル・メジエール。パリから北東に248キロメートル、フランス・シャンパーニュ地方の人口6万人余りの小さな地方都市。この地は、世界の人形劇のメッカとして知られる。3年ごとに開催される「世界人形劇フェスティバル」には、世界25カ国から人形劇のプロが集まる。そして、この9月に行われた大会に、20年に渡る活動が評価され、アマチュア人形劇団としては初めて、船橋地区アマチュア人形劇連絡会が招待された。  
「言葉は通じませんが、会場には多くの子どもたちが訪れ、私たちの人形劇を楽しんでくれました」。坂本さんは連絡会の有志21人と一緒に参加した今回の思い出を楽しく語ってくれた。  
「公演とワークショップを2日間ずつ行いました。ワークショップは、大会主催者の強い要望で、書道、華道、折り紙などの日本文化を紹介しました。準備は大変でしたが、フランスの人たちと楽しく交流できました。大会参加が決まったのは今年の2月。それから、別々の劇団で活動している22人が集まり練習と準備に明け暮れた。「練習では、大いに刺激を受けましたが、お互いの呼吸がなかなか合わずに苦労しましたね」  
坂本さんは、育児のために幼稚園教諭を退職し、18年前に船橋市に転居してきた。幼児教育に携わっていたという思いで、さっそく公民館で本の読み聞かせなどの文庫活動を始めた。そして、2年後に人形劇サークルに参加。現在は、人形劇団ぐるーぷ「あ」の代表であり、市内13の人形劇団が加入している連絡会の会長でもある。  
「子どもたちのふれあいが楽しいんです。人形劇を見ている子どもたちの反応を感じたり、やりとりをしたり...。今回の世界大会参加で、また新たな情熱が芽生えています。これからも、手作りの人形劇を多くの子どもたちに見てほしいですね」。力強い言葉とは異なり、少しも負いがない、穏やかな表情の坂本さん。可能性あふれる幼い子どもたちに豊かな夢を与え続けていくことだろう。

アトリエ松が丘



油絵好きが集まって、楽しく好きに絵を描いています

- ①平成5年5月
- ②松が丘公民館
- ③第1・3土曜日  
(13時～16時30分)
- ④17人
- ⑤加藤三郎  
☎63-0143



今年5月の犬吠埼での写生会

高根台メンズクッキングサークル



コミュニケーションをとりながら、楽しく明るく料理を作っています

- ①平成9年1月
- ②高根台公民館
- ③第1土曜日  
(10時～13時)
- ④15人
- ⑤高見慈應  
☎62-2658



今日のメニューは「クリームシチュー」と「エスニック風ホットドック」です

ハローBaby

今号の市政トピックスでご紹介した「ゴミ減量フェスティバル&南部清掃工場フェア」は、とてもたくさんの方々に喜んでいただけています。リサイクルに対する関心の高さを表れたと思います。  
市では、市民の皆さんと一緒に、ゴミの減量、資源化に取り組んでいますが、現在、南部清掃工場の敷地内にゴミ焼却炉再資源化工場を建設しています。これは、ゴミを燃やした後に残る焼却灰を、透水性ブロックや路盤材の材料に再資源化する工場です。  
透水性ブロックは、水はけがよいため自然に優しく、都市型水害の防止にも効果があります。すでに、アンデルセン公園やJR船橋駅南口の歩道に使われていますが、今後は公園や歩道、公共施設に使用していく予定です。

(西)

あ と が き

なめかわ たかと  
行川 天翔くん  
(本町)  
平成9年5月12日生  
父・母から一言  
「早く一緒にディズニーランドへ行こうね!!」

世界の文化にふれて

西安歌舞団公演やデンマーク音楽祭など



西安歌舞団の色鮮やかで華麗な舞が、満員となった会場の皆さんを魅了しました



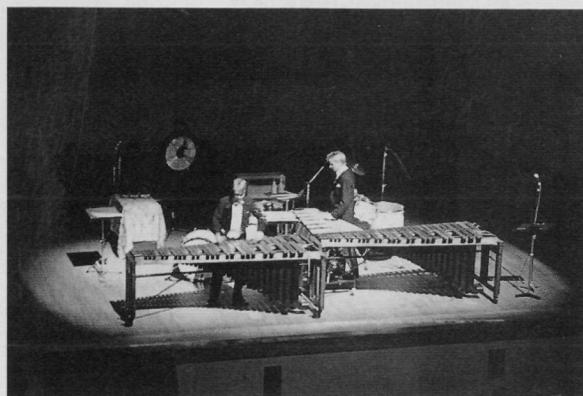
市民ギャラリーで開催された西安書画展で、書や水墨画など94点を展示

中国・西安市から、友好都市提携3周年を記念して友好使節団が来船しました。歌舞団の華麗な民族舞踊の公演と、5人の芸術家による書画展が開催され、訪れた皆さんは、歴史ある中国文化を味わいました。

また、市制施行60周年を記念した、「デンマーク音楽祭」や、創立10周年を迎えた船橋市国際交流協会の記念事業も開催。文化・芸術の秋を迎え、多くの皆さんが世界の文化にふれながら友好を深めていました。



船橋市国際交流協会の設立10周年記念式典に続いて、国際交流のつどいが行われ、20か国318人の皆さんが交流しました



ハーブシコードやパーカッションなどの楽器で、デンマークの作曲家による作品などが演奏されたデンマーク音楽祭

テレビ広報「船橋だより」

内 容	楽しくふれあい学び合い —地域に開かれた学校を目指して—
放映日時	平成9年11月30日(日) 正午～
放送局	千葉テレビ (UHF46ch)
問合せ	広報課 ☎36-2015